

第8回 選挙区及び定数に関する在り方調査会 概要

日 時：令和2年7月28日（火）15時00分～17時00分

方 法：Web会議

出席委員：（8名）金井利之座長、磯崎初仁委員、岩崎美紀子委員、加藤一彦委員、高橋秀禎委員、大橋正春委員、谷口尚子委員、原田大樹委員

出席者：日沖正信議長、服部富男副議長

（事務局）湯浅真子事務局長、畑中一宝次長、枡屋武企画法務課長、袖岡静馬政策法務監、田米正宏課長補佐、米澤明子主査、長谷川智史主任、松井祥嗣主任

傍聴者：11名

1 調査

(1) 人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について

人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割について、中間報告（論点整理）を基に「地域代表」をどのように考えるか委員間で協議が行われ、主に次のような趣旨の発言があった。

- ・ 県議会議員は、県全体の代表としての側面と、地域代表としての側面の二面性を持っており、どちらか一方のみということにはならないのではないかな。
- ・ 県議会において地域代表性を考えるに当たっては、議会は熟議の場であることに鑑み、たとえ少数の議員しかその地域から選出できないとしても地域の代表として意見を表出できることが大切なのではないかな。
- ・ 県議会議員に地域代表性は現に存在しているが、今の時点では、それを強めるような政策を選択する必要はないのではないかな。
- ・ 県議会議員は、地域から選出されるが、県全体の代表として、どういった地域に政策の重点を置くのか判断するのではないかな。
- ・ 市町が求めているのに、県が補完機能を強調するのは望ましくないのではないかな。

(2) 最終報告書（座長案）骨子について

最終報告書（座長案）骨子について委員間で協議が行われ、主に次のような趣旨の発言があった。

- ・ 県や県議会の役割が今後大きくなるとは言い切れないのではないかな。
- ・ 県議会の性格を表す表現として①議会があるからこそ自治体であると

- いえること（議会は民主主義に必須であること）、②二元代表制の下、独任制である首長とは違い議会は合議機関である旨を記載してはどうか。
- ・ 県の補完機能については、市町との調整が前提であることを明示してはどうか。
 - ・ 「シルバーデモクラシーの課題が生じている。」は言い過ぎではないか。「シルバーデモクラシーの課題が生じているとの指摘もある。」などとしてはどうか。
 - ・ 「首長・議会全体として、人口比例の実現を考える必要もある。」は言い過ぎではないか。説明を補足した上で、「首長・議会全体として、人口比例の実現を考えることも考え方としてはあり得る。」などとしてはどうか。
 - ・ 法改正要望の提案については、その必要性を明示した上で、ある程度絞るべきではないか。

2 その他

次回の調査会については、8月31日(月)14時から開催することとなった。
なお、開催の方法については、座長に一任となった。